

ジムニー 車輪対談

PHOTO ● 浅井岳男 TEXT ● 空野 稜、編集部

ジムニー車輪について 語ってみよう

で原点回帰するんです。最近リヤバンパーやフルフラック、スチールバンパーの人気の高いですが、どれも30年前に流行ったものです。谷 弊社でも最近金属バンパーを復刻しましたが、好調です。レトロな雰囲気にするのが今の流行りです。ホイールもレトロ感を重視するのは良さそうですね。河 僕ら世代のおじさんは見慣れた形と思うけど、若い人達は産まれる前からそもそも知らないし、新鮮でカッコ良く見えるんじゃない。でも同じことの繰り返しでなく、進化したり、洗練されている。螺旋状にひとつ階層が上がっている感覚があると思います。谷 昔の雑誌や資料を見て、こんな雰囲気にした！と言っ方も多いです。でもあくまでそれは雰囲気、現代のアレンジは必要ですね。それで思い出しましたが、WORKのCRAGガルバトは「凱旋」とか「復刻」など、原点回帰の意味が込められていますね。WORK(以下、W)：そうですね。ただし単なる復刻ではなく、かつて一世を風靡したCRAGのエッセンスを継承したホイールです。河 どんな製品も売れて欲しい気持ちが強くなると、万人受けする形になりがち。でも最近はそのあたり障りないものより、強烈に賛否が分かれるものの方が面白いと思います。「悪くないね」と言うのは、裏返せば「良くもない」と言っている。谷 確かに否の場合は買わないけれど、賛なら絶対買います。万人受けは難しいです。一部の人に刺さればいいかも知れませんが、対談のために、デモカーでお越しただきました。アピオ号には「CRAG TIGRABI C2」を、タニグチ号は「CRAGガルバト」を装着済みです。率直な感想はどうですか？

WORK

取材協力 ● WORK (https://www.work-wheels.co.jp)
● CRAG SPECIAL SITE (https://crag.work-wheels.jp)

SH-139.7

APIO (アピオ) とTANIGUCHI (タニグチ)。ジムニーオーナーならその名を耳にしたことがあるはず…どこか、もしかしたら何か両社のパーツを装着しているかもしれない。

そんなジムニーカスタムのパイオニアであり、オーナーに支持され続けるカリスマ両者から見た

- ジムニーに似合うホイール
- 現在デモカーに装着しているホイール

そして、今回の対談の立役者でもある

- ホイールメーカーWORKに今後求めるもの

という、3つのテーマについて大いに語り、対談していただいた。

これはきっとジムニーでホイールを選ぶ際の指針のひとつになるだろう！



編集部(以下、編)：ジムニーが誕生して既に半世紀が過ぎましたが、まずはジムニーホイールの基本について教えてください。谷口(以下、谷)：初代から一貫して16×5.5Jで、シエラは15インチです。つまりこれまで発売されたジムニー用ホイールは、基本的には歴代全モデルに装着可能です。サイズも今リリースされているのがベストといえますね。編：さて、現行型JB64の登場から4年が過ぎましたが、サイズが同じでも、先代JB23とは、似合うホイールは違いますよね？河野(以下、河)：全然違いますね！谷：クルマのデザインがそうであるように、その時々でカスタムパーツにも流行りがあります。河：ただし変わらないことがジムニーの魅力でもあります。そもそもジムニーは4ナンバーが起源…つまり働くクルマなんです。そのため弊社では、道具感を大切にしながらデザインを検討しています。実はカスタムスチールホイールを作ろうかと思いましたが、型代が高く断念…。それでアルミだけドブスチール風に見える「ワイルドボアSR」が誕生しました。谷：タニグチでも以前はオリジナルホイールを販売していましたが、現在は絶版となっています。私が入社する以前なので明確な経緯は不明ですが、ホイールメーカー各社がジムニー用に参入したこと、また今のジムニーにタニグチのデザインがマッチしなくなったのが理由ではないかと。いくらデザインを頑張っても、餅は餅屋。ホイールメーカーのセンスや技術には大刀打ちできないですね。河：JB64が出て既存品を装着してみました。面白いこと、デザインやカスタムの方向性も一周回

APIO/JB64 20 mm UP

取材協力 ● APIO (<https://www.apio.jp>)



シルバーのボディカラーに、あえて艶消しブラックのバンパーをセットして硬派な雰囲気を醸し出すアピオのデモカー。クランカルテストのアイアンリングは、ノーマルらしさを残しつつ、ひと味違う個性を演出できる。またAPIOのリヤバンパーは左右を切り詰め、スタイルだけでなくオフロードでの走破性を高めた機能部品だ。マフラーはライダーなら誰もが知っているあの「ヨシムラ、とコラ

ボした製品で、河野社長のキモ入りパーツで特徴的なサイレンサーがリヤビューをアピールする。
足回りは64 20SAサスペンションキットで、20mmのリフトアップ。ステアリングダンパーも交換することで、直進安定性も高められた。他にもマグネットが内蔵されたキーホルダーなど、オーナーなら所有したいと思うギアも充実。老舗の提案は、気軽にカスタムを楽しめるはず。



CRAG T-GRABIC2

クラッグ・Tグラビック

一般ユーザー向けだけでなく、ワークは様々なモータースポーツをサポートし、活躍中。例えばバハ1000に参戦した埼玉都夫選手にはT-GRABICレーシングモデルを提供。そこから得たデータを基に市販品としてリリースされたのが、名作ホイール「T-GRABIC」。その後、埼玉選手の要望を受け入れた改良レーシングホイールに進化し、同時に市販品もさらにブラッシュアップして強度を高めた「T-GRABIC2」を発売！なお、市販品の発売直前に開催されたアジアクロスカンントリーでもその強靱さは立証済み。デザイン上のポイントは、ビードロック風のリムフランジに、歯車とスポークを合わせたようなスタイルを採用。リム部分はRを設けて見た目の立体感だけでなく、強度も追求。カラーはアッシュドチタンカットリムとグリッドブラックカットミルの2色。



TANIGUCHI/JB64 2"UP

取材協力 ● OFF-ROAD SERVICE TANIGUCHI (<https://www.ors-taniguchi.co.jp>)



ソロキャンプやアウトドアのトランスポーター...そんなイメージでカスタムされたタングチのJB64は、ワクワクするようなスタイルがポイント。前後バンパーは下方への張り出しを少なくしたFRP製に交換することで、アウトドアはもちろん本格オフロード走行にも対応。ステップやホイールセンタープレート、リアフェンダーカバーなど、「あったらいいな」と思うアイテムを各種ラインアップ。

サスペンションは2インチのリフトアップ。数値のみで判断しがちだが、しっかりと伸び縮みするサスペンションなので、オンロードからオフロードまで、オールマイティな走りを楽しめる。ホイールはワークのガルバトレで、タイヤはこの秋、リリースされたばかりのオープンカントリー785。復刻されたレッドパターンに加え、ホワイトアイボリーのレターが新たなスタイルをつくりあげよう。



CRAG GALVATRE

クラッグ・ガルバトレ

鋳造3ピース構造を採用するCRAG ガルバトレの最大の利点、それは変幻自在とも言えるサイズとインセット設定にある。ジムニーの場合、保安基準の関係もあり、オーバーフェンダーを装着するほどハードなカスタムは一般的ではないだろうが、それでもインナー&アウターリム/ディスク/ピアスポルトは別々の部品で構成されるので、それぞれ異なる色を組み合わせたことができる。
まさに自由な組み合わせを可能とし、なんと624通りものバリエーションを展開！しかもそれらは、1本ずつ職人の手によって入念にバランス取りされながら組立てられる。大量生産品をただ装着するのではなく、自分の理想のスタイルを追い求めるカスタムユーザーのためのホイールだ。なお、ガルバトレのルックスはオフロード王者の丸穴ディッシュタイプを採用している。

WORK

取材協力 ● WORK (<https://www.work-wheels.co.jp>)
● CRAG SPECIAL SITE (<https://crag.work-wheels.jp>)



谷 今のデモカーのイメージにピッタリです！すごく豊富なカラーバリエーションがあると最初に伺いましたが、自分の好きにコーディネートできるのは画期的で魅力的です。リムとディスクの色も車体と非常に良くマッチしているので「デモカーに合わせて塗装したんですか？」と聞かれることも多いですね。そのたびに「市販品です」と伝えていますよ。
河 そんなにバリエーションがあるんですか？
W ジムニー用は、ざっと600通り以上です。納期はかかりますが、市販品でありながらオンラインのテストを味わえます。

谷 これからの時代、オリジナルティは大事だと思っています。最近では真似したがるユーザーさんもいるけれど、一方でこだわらる方は自分だけの個性を求めています。SNSの影響が大きいと思いますが、そういう方にとって個性を演出できて、自分なりにカスタムできるホイールは有りですね。
河 逆にT-GRABIC2の印象はどうでしょう？
W 大きく文類すると6本スポークのホイールに属しますが、よく見ると各部のデザインにコダワリがたくさん見られます。ワーク製品ですから、もちろん耐久性や信頼性は言うことなし。ある意味様々な要素が融合したホイールと言えますね。アピオとしては考えつかないデザインですが、様々な

河 ビードロック風のリムガードとかあると面白いですが、もちろん本当にオフロードで使う人は少数かも知れないですが、それに惹かれる人は多いと思います。開発の真話というか、高いスペックが好きなのは多いですか？
谷 アウトドア用品の防水性能もそうですが、持っていること安心という満足度は高いですね。
W どこまで新たな製品作りで活かせるかわかりませんが、貴重なご意見を数多く頂けました。これからもワークにご期待ください！
河 楽しみにしています！

ホイールがリリースされることで、ユーザーの選択肢の幅が広がるのは非常に良いですね。
河 ユーザーの好みが多様化していることもあり、かつての、大ヒットアイテムは、今後生まれにくいのかも知れません。これから今までにないホイールを造るなら、どういった要望がありますか？
谷 やはりガルバトレのように、好みに合わせてカスタム可能なホイールが良いと思います。ジムニーの場合、最初に申し上げた通りサイズはほぼ一択。そうなるので、ピースの方が作り手としては都合がよいけど、例えばステッカーなどがあれば、お客さんが好きにアレンジできますよね。
河 ドレスアップもいいけれど、ジムニーはオフロード4WDなので、やっぱりオフロード性能に特化したホイールがあっても面白い。オフロードを走るとどうもリムが傷つくけど、それ前提でリムが交換できるのか？

ホイールもパーツも万人受け、というキーワードよりも個性の強いモノの方が強く支持される可能性がある！



オフロードサービスタングチ・代表
谷口 武さん

アピオ・代表
河野 仁さん

エクステリアからインテリア、サスペンションなどのハードなカスタマイズパーツからインテリア用小物まで、ありとあらゆるジムニーパーツをプロデュースし続けて40年以上の歴史を誇る「オフロードサービスタングチ」。ジムニー界の顔の横綱という称号に、異論を唱える人はいないだろう。現在、社長を務める谷口 武(たけし)さんは、2代目にあたり、ジムニーに精通するだけでなく、アウトドアのインストラクターとしての資格も持つ。老舗ブランドの誇りを維持しつつ、若い新しい視点と感性でこれからのジムニーカスタムを提案していく。

尾上氏が創業したアピオは、カスタマイズパーツの販売だけでなく、バリタカールラリーやモンゴルラリーといった海外レースで、パーツの走破性や耐久性の高さを立証。そんなアピオを引き継いだのが、現社長の河野 仁(こうの ひとし)さん。アピオ入社前は家電メーカーでプロダクトデザイナーとして勤務していた経験があることなど、河野氏が代表となつてからアピオのパーツやデモカーに、機能だけでなくファッション性も加わった。ユーザーの嗜好を敏感に感じ、様々なスタイルのコンプリートモデルを提案するが、そこにジムニーの本質である「走りの楽しさ」は健在だ。

ジムニー 車輪対談